

小児がん連携病院 現況報告書

令和元年9月1日時点について記載

1. 指定区分

- 類型1(地域の小児がん診療を行う連携病院)
- 類型2(特定のがん種等についての診療を行う連携病院)
- 類型3(小児がん患者等の長期の診療知性の強化のための連携病院)

2. 病院概要

病院名(表紙シート of 病院名を反映)

恩賜財団 済生会横浜市南部病院

よみがな

おんしざいだん さいせいかいよこはましなんぶびょういん

郵便番号

〒

234-8503

住所

神奈川県 横浜市港南区港南台三丁目2番10

よみがな

こうなんくこうなんだいさんちょうめ

電話(代表)

045-832-1111

FAX(代表)

045-832-8335

e-mail(代表)

soumu01@nanbu.saiseikai.or.jp

HPアドレス

<http://www.nanbu.saiseikai.or.jp/>

診療科

開設診療科数

29

診療科名(具体的に記載)

総合内科 消化器内科 呼吸器内科 腎臓高血圧内科 糖尿病・内分泌内科 神経内科 血液内科 リウマチ・膠原病内科 循環器内科 小児科・新生児内科 外科 整形外科 脳神経外科 心臓血管外科 呼吸器外科 皮膚科 泌尿器科 産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 放射線科 リハビリテーション科 緩和医療科 歯科口腔外科 形成外科 精神科 麻酔科 救急診断科 病理診断科

病床数

総病床数

500 床

診療実績（平成30年1月1日～12月31日）

年間新入院患者数 ※1	1,472	人
年間新入院小児がん患者数 ※1	4	人
年間新入院患者数に占める小児がん患者の割合□	0.3	%
小児がん入院患者数 ※2	20	人
小児がん入院患者在院延べ日数 ※2	306	日
外来小児がん患者数 ※3	138	人
小児がん患者の長期フォローアップを行った人数 ※4	25	人
セカンドオピニオンの対応を行った小児がん患者数 ※5	0	人
他施設から紹介され受け入れた小児がん患者数 ※5	4	人
小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	4	機関
小児がん患者の他施設への紹介患者数 ※6	3	人
小児がん患者を紹介した医療機関数	2	機関

※1 18歳以下を対象とする。年間新入院患者数は総数を計上する。

※2 入院患者数は延べ数で計上する。なお、同一患者が当月中に2回入院した場合には2件とし、入院した患者がその日のうちに退院あるいは死亡した場合も計上する。

※3 診断時18歳以下の診断例とする。当年の診療録の作成または記載の追加を行った、新来もしくは再来小児がん患者の延べ数を記入する。同一患者が2つ以上の診療科を受診し、それぞれの診療科で診療録の作成または記載の追加を行った場合、それぞれの外来

※4 小児がん患者の長期の晩期合併症や移行期医療に対応するために、長期フォローアップとともに、必要に応じた適切な医療を提供した人数を計上する。

※5 診断時18歳以下の診断例とし、総数を計上する。

※6 診断時に18歳以下であった患者の総数を計上するが、紹介時には18歳を超えていても構わない。

がんに関する専門外来の名称

小児がん長期フォローアップ外来

【類型3】 小児がん患者等の長期の診療体制の強化のための連携病院
 地域で小児がん患者の晩期合併症や移行期医療に対応するために、長期フォローアップとともに、必要に応じた適切な医療を提供することが可能な医療機関。

病院名： 恩賜財団 済生会横浜市南部病院

3 小児がん患者の長期の診療体制の強化のための連携病院		整備指針上の要件 A: 必須 B: 望ましいもの -: 参考	はい: 記載内容を満たしている いいえ: 記載内容を満たしていない
(3) 小児がん患者等の長期の診療体制の強化のための連携病院			
ア	小児がん患者等の長期フォローアップが可能な体制を有するとともに、患者の状態に応じた適切な治療が必要な場合、自施設において適切な治療を提供することが可能であり、また、自施設での対応が難しい場合には、拠点病院等適切な病院に紹介する体制を整えている。	A	はい (はい/いいえ)
	小児がん患者に対して、移行期医療や成人後の晩期合併症対応等も含めた長期フォローアップ体制を構築している。	A	はい (はい/いいえ)
	長期フォローアップ外来(小児がん経験者の健康管理、晩期合併症の予防、疾病の早期発見・早期治療のための外来)を開設している。	-	はい (はい/いいえ)
	長期にわたり診療するための具体的な診療体制について別紙4に記載すること。		別紙4
	AYA世代にあるがん患者について、がん診療連携拠点病院等への紹介も含めた適切な医療を提供できる体制を構築している。	A	いいえ (はい/いいえ)
	AYA世代への診療提供体制(自施設・他施設の成人診療科との連携状況)について別紙5に記載すること。		別紙5
イ	一般社団法人小児血液・がん学会が主催する「小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会」を受講した医師を配置している。なお、上記については、令和2年3月までに、配置していれば良いものとする。	A	いいえ (はい/いいえ)
ウ	以下に準じた連携の協力体制を構築していること。		
	地域の医療機関から紹介された小児がん患者の受入れを行っている。また、小児がん患者の状態に応じ、地域の医療機関へ小児がん患者の紹介を行っている。	A	はい (はい/いいえ)
	小児がんの病理診断または画像診断に関する依頼や手術療法、放射線療法または薬物療法に関する相談など、地域の医療機関等の医師と相互に診断および治療に関する連携協力体制を整備している。	A	はい (はい/いいえ)
	患者の状況等に応じて、地域連携クリティカルパス(拠点病院と地域の医療機関等が作成する診療役割分担表、共同診療計画表および患者用診療計画表から構成される小児がん患者に対する診療の全体像を体系化した表をいう。以下同じ。)を整備している。	B	いいえ (はい/いいえ)
	地域連携クリティカルパスを活用するなど、地域の医療機関等と協力し、必要に応じて、退院時に当該小児がん患者に関する共同の診療計画の作成等を行っている。	B	いいえ (はい/いいえ)
エ	情報の収集提供体制		
	相談支援の窓口を設置し、必要に応じて、拠点病院の相談支援センターに紹介している。	B	いいえ (はい/いいえ)
	相談支援センターの状況について別紙2に記載すること。		別紙2
	「小児がん中央機関による研修について」(平成27年3月31日付け厚生労働省健康局がん対策・健康増進課事務連絡)に定める小児がん中央機関が実施する所定の研修を修了した、小児がん患者及びその家族等の抱える問題に対応できる専任の相談支援に携わる者を配置している。	B	いいえ (はい/いいえ)
オ	緊急対応が必要な患者や合併症を持ち高度な管理が必要な患者に対して、拠点病院やがん診療連携拠点病院等と連携し適切ながん医療の提供を行っている。	-	はい (はい/いいえ)
カ	診療実績		

① 小児がんについて年間(平成30年1月1日～12月31日)新規症例数が30例以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。	A	いいえ	(はい/いいえ)
② 固形腫瘍について年間(平成30年1月1日～12月31日)新規症例数が10例程度以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。	A	いいえ	(はい/いいえ)
③ 造血器腫瘍について年間(平成30年1月1日～12月31日)新規症例数が10例程度以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。	A	いいえ	(はい/いいえ)
診療実績等について別紙3に記載すること。		別紙3	
医療安全体制			
組織上明確に位置づけられた医療に係る安全管理を行う部門(以下「医療安全管理部門」という。)を設置し、病院一体として医療安全対策を講じている。	-	はい	(はい/いいえ)
当該部門の長として常勤の医師を配置している。	-	はい	(はい/いいえ)
医療に係る安全管理を行う者(以下「医療安全管理者」という。)として(1)に規定する医師に加え、常勤の薬剤師及び常勤の看護師を配置している。	-	はい	(はい/いいえ)
医療安全体制について別紙1に記載すること。		別紙1	

医療安全体制

医療に係る安全管理を行う部門の名称		医療安全管理室			
医療に係る安全管理を行う部門のメンバー					
職種		常勤／非常勤	専従/専任/兼任	人数	うち、医療安全対策に係る研修を受講した者の人数
1	医師	常勤	専従	1	1
			専任		
			兼任		
		非常勤	専従		
			専任		
			兼任		
2	薬剤師	常勤	専従	1	1
			専任		
			兼任		
		非常勤	専従		
			専任		
			兼任		
3	看護師	常勤	専従	1	1
			専任		
			兼任		
		非常勤	専従		
			専任		
			兼任		
4	事務	常勤	専従(8割以上)	2	2
5					
6					
7					
8					
9					
10					

●医療安全のための患者窓口

窓口の名称		医療安全管理室			
電話	直通				
	代表	045-832-1111	(内線)	476	

相談支援センターの状況



長期にわたり診療するための具体的な診療体制

日時： 毎月第1・3木曜日の午前中に「小児がん長期フォローアップ外来」を小児科外来内で診療を行っている。

担当： 小児血液がん暫定指導医および血液専門医が担当している。

がん種により、また受けた治療の内容によって、予測される晩期障害や、二次がんの種類などが異なるため、個人にあわせたスクリーニングを行っています。

具体的には、診断名・病期・診断からの年数・治療内容(化学療法、手術、放射線照射、移植などを含む)・現在抱えている合併症・注意すべき点などをまとめたスクリーニングシートを利用し、診察内容・検査内容を決定します。

気になる点、合併症などが見つかった際に、各診療科(成人科)の医師に同時に診療依頼をします。

当院内で対応しきれない問題に関しては、専門施設と連携します。

また、心理社会的問題が存在する(可能性も含め)場合、また社会資源の提供が必要と考えられた際に、相談支援室に案内する。

小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会を受講後からは、長期フォローアップ外来時に、診療と同時に看護師・メディカルソーシャルワーカーとの面談を組み入れていく予定である。

AYA世代への診療提供体制

現在は、小児期発症の小児がん患者がAYA世代になって以降も長期フォローアップを行っている。
しかし、AYA世代に発症したがん患者の長期フォローアップ体制は、成人科との連携を構築中である。